

# 金と米の比価の世界史

新井宏

近年、金価格が暴騰している。一時は、トロイ・オンス(三一・一<sup>ポ</sup>)あたり二千ドルの声も聞かれるほどの加熱ぶりであったが、現在は千六百ドル近辺に落ち着いているようだ。それでもグラムあたり四千円以上である。

ところで、前から気になつていたことがある。穀物の値段と金の値段を歴史的に比較して見ると、地域や時代に関係なく、ほぼ同一の比率を保っているのである。

まず、直近の日本を見てみよう。金一<sup>ポ</sup>で四千円であるから、「こしひかり」でも十<sup>キ</sup><sup>ポ</sup>買える。銘柄によつては十五<sup>キ</sup><sup>ポ</sup>は買えるだろう。

それでは、江戸時代はどうであつたらうか。小判の金含有量は時代によつて六<sup>ポ</sup>から十五<sup>ポ</sup>と変化しているが一兩一石なら、平均的に金一<sup>ポ</sup>で米十五<sup>キ</sup><sup>ポ</sup>買えたことになり、現在と全く同じである。

かくして、金一<sup>ポ</sup>から米を何<sup>キ</sup><sup>ポ</sup>買えたかムキになつて調べて見たのが次の資料である。

奈良時代	八 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>
延喜式	九 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>
平安中期	一一 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>

平安末期	一〇 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>
鎌倉初期	一二 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>
室町中期	二〇 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>
戦国期	一二 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>
江戸初期	二五 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>
江戸元禄	一二 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>
江戸享保	一三 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>
江戸明和	一七 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>
明治23年	一五 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>
昭和16年	一五 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>

それでは外国はどうであつたらうか。そうなるかと計量史を知る者の出番である。

前漢	六 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>
唐	一〇 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>
南宋初	一五 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>
古代ローマ	二五 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>
英15世紀	一七 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>
英16世紀	一二 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>
英17世紀	一一 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>
英18世紀	一〇 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>
米19世紀	一五 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>

近代になると米国には米価の資料もある。ところ、冒頭で現在の金価格(グラム当たり四千円)なら金一<sup>ポ</sup>で米十五<sup>キ</sup><sup>ポ</sup>は買えると言つたが、そこには若干トリックがある。

異常に高騰した現在の金価格と、国際的に異常高の日本の米価を比較しても無意味との異論もある。気が引けるので、

金価格の上昇が一服していた二〇〇一〜五年の期間の米価について、カルフォルニア米と国内米を対象として計算してみた。二〇〇一〜〇五年

加州米	二八 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>
国産米	五 <sup>キ</sup> <sup>ポ</sup> <sup>ム</sup>

大差のある結果であるが、いずれはこれらの中間値に落ち着くと考えれば、冒頭に提示したことも、それほど誤つてはいない。何時の時代も金一<sup>ポ</sup>で米や小麦を十五<sup>キ</sup><sup>ポ</sup>ほど買えたのである。

したがって、金を貨幣の基準として使うのは、人類の知恵であつた。金が通貨ならインフレはな

いからである。誰もが知つているように、通貨インフレは借金棒引きの特効薬で、政府の債務に対しては特に有効である。だから、常用通貨の価値を金にリンクさせることを理想としながらも、世界の歴史はいつも「ドル鉱山」でドル札を大量生産する誘惑に逆らえなくなり、後で深刻な後遺症を招いている。四十年前のニクソンショックによつてドル紙幣の金との兌換が停止されたから、世界経済は曲芸的な運営を求められて続けている。どんな些細なきっかけでも、悪い方にしたのは、金から離れよ

うとした人類のうぬぼれ  
から始まったような気が  
してならない。

(前韓国国立慶尚大学招  
聘教授、元日本金属工業  
常務、金属考古学、計量  
史)